

平成28年

火災・救急活動の概要

高槻市消防本部

1 火災

(1) 火災件数と出火率

◎火災は1件の増加

平成28年中に高槻市内で発生した火災は76件で、前年の75件と比べ1件の増加となった。

出火率（人口1万人当たりの出火件数）は2.1で、全国平均（平成27年中）3.1と比べ1.0ポイント低い。

(2) 火災種別

◎建物火災が約半数

平成28年中の火災件数のうち建物火災が43件で、全火災の約半数を占めている。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

建物火災	43件（56.6%）
林野火災	0件（0%）
車両火災	12件（15.8%）
その他の火災	21件（27.6%）

(3) 焼損面積

◎焼損床面積は減少、焼損表面積は増加

建物火災は43件で前年の35件から8件増加したものの、焼損床面積は337平方メートルで、前年の630平方メートルに比べ減少となった。

焼損表面積は266平方メートルで、前年の27平方メートルに比べ増加している。

(4) 損害額

◎損害額は減少

平成28年中の損害額は26,169千円で、前年の56,526千円から比較すると30,357千円の減少となった。

1件当たりの損害額は344千円で、前年の754千円より410千円の減少である。

※ 損害額の整数第3位を四捨五入

(5) 火災による死傷者

◎死者はなし、負傷者は増加

平成28年中の火災による死者はなく、平成27年と連続してゼロを記録（昭和37年以降初の記録）、負傷者は17人（前年11人）であった。

また、負傷者17人のうち、重症者はなく（前年0人）、中等症者が4人（前年3人）、軽症者が13人（前年8人）である。

(6) 原因別に見た火災発生状況

◎平成28年は「放火（疑いを含む）」が1位に

ア 平成28年中の全火災（76件）を出火原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

放火（疑い12件を含む）	18件（23.7%）
電灯・電話等の配線	7件（9.2%）
たばこ	6件（7.9%）
こんろ	6件（7.9%）
電気機器	5件（6.6%）
たき火	4件（5.3%）

火あそび	3件 (3. 9%)
配線器具	3件 (3. 9%)
排気管	2件 (2. 6%)
ストーブ	2件 (2. 6%)
灯火	1件 (1. 3%)
焼却炉	1件 (1. 3%)
その他	15件 (19. 7%)
不明	3件 (3. 9%)

イ 建物火災（43件）を原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

放火（疑い3件を含む）	8件 (18. 6%)
こんろ	6件 (14. 0%)
電気機器	5件 (11. 6%)
電灯・電話等の配線	4件 (9. 3%)
たばこ	3件 (7. 0%)
配線器具	3件 (7. 0%)
ストーブ	2件 (4. 7%)
火あそび	1件 (2. 3%)
たき火	1件 (2. 3%)
灯火	1件 (2. 3%)
その他	8件 (18. 6%)
不明	1件 (2. 3%)

(7) まとめ

平成28年中の火災は、76件で前年の75件に比べ1件増加している。従前に引き続き地域住民等に対して防火意識の高揚を図り、より一層の火災予防に取り組む必要がある。

火災種別でみると、建物火災が43件で前年より8件増加したが、焼損床面積や損害額は前年より減少している。

火災による死者はなく、負傷者は17人で、前年より6人増加している。

出火原因は、「放火（疑いを含む）」が18件で1位、「電灯・電話等の配線」が7件、「たばこ」「こんろ」が6件、と続いている。「放火（疑いを含む）」は、前年の29件から11件減少したが、消防、警察、自治会、自主防災組織、事業所等が取り組んでいる「放火されにくい地域環境作り」を継続し、放火撲滅に向けた積極的な対策をより一層推進していかなければならない。

平成28年火災概要（対前年比）

区 分	単位	平成28年 (A)	平成27年 (B)	増減 (C) (A) - (B)	増減率 (%) (C) / (B) × 100		
出火件数		76	75	1	1.3		
建物火災	件	43	35	8	22.9		
林野火災		0	0	0	0		
車両火災		12	10	2	20.0		
その他の火災		21	30	△9	△30.0		
焼損棟数			51	39	12	30.8	
全 焼	棟	4	3	1	33.3		
半 焼		2	4	△2	△50.0		
部分焼		5	6	△1	△16.7		
ぼ や		40	26	14	53.8		
焼 損 面 積	建	床面積	m ²	337	630	△293	△46.5
	物	表面積	m ²	266	27	239	885.2
	積	林 野	a	0	0	0	0
死者	人	0	0	0	0		
負傷者	人	17	11	6	54.5		
り災世帯		38	26	12	46.2		
全 損	世帯	4	3	1	33.3		
半 損		1	0	1	100.0		
小 損		33	23	10	43.5		
り災人員	人	101	76	25	32.9		
損害額		26,169	56,526	△30,357	△53.7		
建物(収容物含む)	千円	19,723	54,642	△34,919	△63.9		
林野		0	0	0	0		
車両		5,812	1,652	4,160	251.8		
その他(爆発含む)		634	232	402	173.3		
出火率		件	2.1	2.1	0	0	
年	平成28年			平成27年			
主な火災原因	1	放火(疑いを含む)	18件	1	放火(疑いを含む)	29件	
	2	電灯・電話等の配線	7件	2	たばこ	9件	
	3	たばこ	6件	3	こんろ	8件	
	3	こんろ	6件	4	ストーブ	4件	
	5	電気機器	5件	4	火あそび	4件	

過去5年間の火災状況

区分		年別	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
火災件数			120	111	50	75	76
内 訳	建 物		43	49	27	35	43
	林 野		5	2	0	0	0
	車 両		10	7	7	10	12
	その他		62	53	16	30	21
	爆発（再掲）						
焼損棟数（棟）			49	52	36	39	51
内 訳	全 焼		3	3	5	3	4
	半 焼		0	1	1	4	2
	部分焼		8	11	3	6	5
	ぼ や		38	37	27	26	40
焼損面積	建 物	床面積（㎡）	1,460	342	910	630	337
		表面積（㎡）	44	38	6	27	266
	林 野（a）		10	2	0	0	0
り災世帯（世帯）			43	35	24	26	38
内 訳	全 損		14	5	6	3	4
	半 損		3	2	2	0	1
	小 損		26	28	16	23	33
り災人員（人）			93	74	61	76	101
損 害 額（千円）			192,695	57,460	99,279	56,526	26,169
内 訳	建 物（収容物含む）		173,087	54,100	78,002	54,642	19,723
	林 野		0	6	0	0	0
	車 両		15,113	3,010	19,112	1,652	5,812
	その他（爆発含む）		4,495	344	2,165	232	634
死 者	48時間（人）		2	0	1	0	0
	30日（人）		0	0	0	0	0
負 傷 者（人）			20	11	12	11	17
覚 知 別 件 数			120	111	50	75	76
内 訳	火災報知専用電話（119）		67	69	23	37	42
	加 入 電 話		2	2	1	1	0
	警 察 電 話		11	4	3	7	5
	事 後 聞 知		36	32	19	29	28
	そ の 他		4	4	4	1	1

2 救 急

(1) 救急出動件数

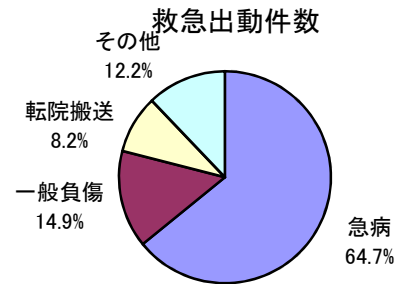
◎ 出動件数は増加

平成28年中の救急出動件数は20,317件で、前年19,022件に比べ1,295件(6.8%)増加した。

また、1日平均にすると約56件、約26分に1回の割合で出動したことになる。

出動件数を事故種別毎にみると、第1位が急病で13,148件(64.7%)、第2位が一般負傷3,018件(14.9%)、第3位が転院搬送1,677件(8.2%)の順となっている。(右図参照)

そのうち、特別救急隊の出動件数は599件であった。



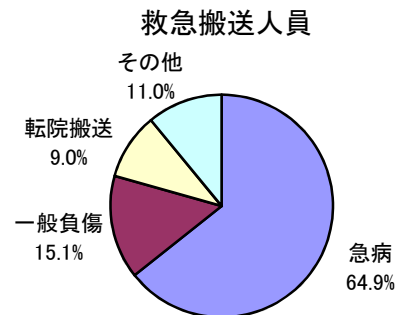
(2) 救急搬送人員

◎ 搬送人員は増加

平成28年中の搬送人員は18,544人で、前年17,420人に比べ1,124人(6.5%)増加した。

また、1日平均約51人、市民の約19人に1人が救急車で医療機関へ搬送されたことになる。

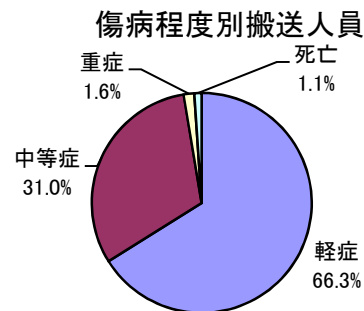
搬送人員を事故種別毎にみると、第1位が急病で12,027人(64.9%)、第2位が一般負傷2,796人(15.1%)、第3位が転院搬送1,674人(9.0%)の順となっている。(右図参照)



(3) 傷病程度別搬送人員

◎ 軽症患者は12,287人

平成28年中の搬送人員18,544人を傷病程度別にみると、軽症(傷病の程度が入院加療を要しない)が12,287人(66.3%)で最も多く、次いで中等症(傷病の程度が重症又は軽症以外のもの)が5,759人(31.0%)、重症(傷病の程度が3週間以上の入院加療を要するもの)が294人(1.6%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)が204人(1.1%)の順となっている。(右図参照)



(4) まとめ

◎ 応急手当普及啓発と救急車の正しい使い方をPR

平成28年中の高槻市における救急活動は、前年と比較すると、出動件数・搬送人員とも増加となった。

搬送人員を傷病程度別にみると、依然として軽症患者が多く、全搬送人員の66.3%を占めており、全国平均49.4%(平成27年中)に比べ高い割合を示している。

このことから日常的に、更には「救急の日」等の諸行事、救命講習会・各広報媒体を通じて、応急手当普及啓発と救急車の正しい利用について、市民の方に周知徹底を図る必要がある。

救急概要

区分 事故種別		出動件数(件)			搬送人員(人)		
		28 年	27 年	増 減	28 年	27 年	増 減
合 計		20,317	19,022	1,295	18,544	17,420	1,124
火 災		55	46	9	16	11	5
自然災害		0	0	0	0	0	0
水 難		5	4	1	1	0	1
交 通		1,628	1,519	109	1,548	1,471	77
労働災害		145	133	12	139	123	16
運動競技		134	118	16	132	118	14
一般負傷		3,018	2,825	193	2,796	2,621	175
加 害		89	105	△ 16	80	88	△ 8
自損行為		205	162	43	127	97	30
急 病		13,148	12,200	948	12,027	11,205	822
そ の 他	転院搬送	1,677	1,689	△ 12	1,674	1,683	△ 9
	医師搬送	0	0	0	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0	0	0	0
	その他	213	221	△ 8	4	3	1

3 救 助

	火災	交通 事故	水難 事故	自然災害 事故	機械に よる事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	その他	合計
出動件数(件)	4	42	6	0	2	100	0	114	268
活動件数(件)	4	20	4	0	2	81	0	52	163
救助人員(人)	1	20	4	0	2	83	0	26	136

4 その他

(1) 警戒・支援出動等

区分	件数	警戒・支援等の内容
予防出動	24件	火災危険のあるもの(危険物・ガス漏洩等)
誤虚報出動	38件	火災出場したが結果誤虚報であったもの
支援出動	564件	救急等の支援活動
その他出動	335件	上記以外(怪煙調査・エンジンオイル漏洩等)
合計	961件	

(2) 応援出動

応援先	件数	応援出場の内容
島本町	31件	救急出動28件(特別救急隊21件)・火災出動2件・救助出動1件
茨木市	6件	救急出動4件・火災出動1件・その他出動1件
摂津市	5件	救急出動5件
枚方市	1件	救急出動1件
京都市	4件	救急出動2件・その他出動2件
熊本県	1件	南阿蘇村(緊急消防援助隊大阪府大隊として出動)
合計	48件	

(3) その他の災害出動

区分	件数	その他の災害の内容
風水害出動	2件	大雨洪水警報(9月28日、29日)に伴う警戒等

※ 表中の△印は減少もしくは負数を表す